

歯周炎

歯周炎の分類(日本歯周病学会)

1. 慢性歯周炎
2. 侵襲性歯周炎
3. 遺伝疾患に伴う歯周炎

慢性歯周炎の特徴

- ・ 成人に多いが、子供や青年にも発症する。
- ・ 破壊の量は局所因子の存在と一致する。
- ・ 歯肉縁下歯石が高頻度で認められる。
- ・ 様々な細菌のパターンと関連している。
- ・ 進行速度は遅いか中程度である。
- ・ 急速に進行する時期もある。
- ・ 宿主因子や環境因子に修飾される。

範囲と重症度

- ・ 限局型：病変部位が 30%以下
 - ・ 広汎型：病変部位が 30%より大きい (28 歯で 30%は 8 歯に相当)
 - ・ 軽度：1~2mm の CAL
 - ・ 中等度：3~4mm の CAL
 - ・ 重度：5mm 以上の CAL
- CAL：臨床的アタッチメントロス

慢性歯周炎の二次分類

- ・ 全身疾患関連歯周炎
 - ・ 白血病
 - ・ 糖尿病
 - ・ 骨粗鬆症 / 骨減少症
 - ・ AIDS
 - ・ 後天性好中球減少症
 - ・ その他
- ・ 喫煙関連歯周炎
- ・ その他のリスクファクターが関連する歯周炎

侵襲性歯周炎の特徴

- ・ 全身的には健康である。
- ・ 急速なアタッチメントロスと骨吸収を認める。
- ・ 家族内集積が認められる。
- ・ 微生物の付着量と歯周組織破壊の重症度に不均衡がみられる。
- ・ *A.actinomycescomitans* の比率が上昇している。
- ・ 貪食細胞の異常が見られる。

限局型侵襲性歯周炎

- ・ 思春期前後に発症
- ・ 感染因子に対する著しい血清抗体反応
- ・ 第一大臼歯と前歯に限局した隣接面のアタッチメントロスが 2 歯以上ある。それ以外の部位では 2 歯までである。

広汎型侵襲性歯周炎

- ・ 通常 30 歳以下だが、それ以上の年齢でも認められる。
- ・ 感染因子に対する血清抗体反応は十分に誘導されない。
- ・ 歯周組織の破壊には活動期と静止期がある。
- ・ 第一大臼歯と前歯以外に少なくとも 3 歯以上の広範な隣接面アタッチメントロスがある。

遺伝疾患に伴う歯周炎

- ・ 家族性周期性好中球減少症
- ・ Down 症候群
- ・ 白血球粘着能不全症候群
- ・ Papillon-Lefèvre 症候群
- ・ Chédiak-Higashi 症候群
- ・ 組織球症候群
- ・ 小児遺伝性無顆粒球症
- ・ グリコーゲン代謝疾患
- ・ Cohen 症候群
- ・ Ehlers-Danlos 症候群(Ⅲ・Ⅷ型)
- ・ 低アルカリホスファターゼ血症
- ・ その他